

国登録有形文化財 旧芦屋市営宮塚町住宅

にっかせき
日華石で造られた元市営住宅が国の文化財に

問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115

今年の3月に、旧宮塚町住宅が国登録有形文化財(文化財名称は「旧芦屋市営宮塚町住宅」)に登録されることが決定しました。この建物は昭和28(1953)年に建設された市営住宅で、平成29(2017)年にその役目を終えた後、耐震改修工事とリノベーションを行い、令和元(2019)年から紅茶専門店や、ものづくり職人のお店が集まるおしゃれな建物として生まれかわりました。



戦後復興期に建設された市営住宅

昭和20(1945)年、芦屋市は4度の空襲によって市街地の約4割が焼失し、終戦後は深刻な住宅不足に見舞われました。それに対応するため昭和21(1946)年から市営の木造住宅の建設を開始しました。当時は都市の不燃化を目指していましたので、昭和27(1952)年に市営住宅で初めて鉄筋コンクリート造(4階建)の宮塚町住宅北棟(現存せず)を建設し、翌昭和28(1953)年には石造(2階建)の宮塚町住宅南棟(今回の旧宮塚町住宅)を建設しました。

宮塚町住宅(北棟・南棟)は、戦後復興期の深刻な住宅不足と建物の不燃化に対して本市が建設した最初の非木造の市営住宅でした。昭和20年代の公営住宅を知ることができる全国的にも稀少な現存例として高く評価され、国登録有形文化財に登録されました。

なぜ、石造り？

旧宮塚町住宅は全国で唯一の石造の集合住宅で、その最大の特徴は日華石(石川県小松市産の凝灰岩^{ぎょうかいがん})を用いた石造の外壁です。この構造を詳しくみると、各石材の間に鉄筋を張り巡らせることによって石造でありながら耐震性にも優れたものになっています。

なぜ、旧宮塚町住宅は大変珍しい石造なのでしょう？昭和20年代に建物の不燃化が検討される中、当時のセメント不足の解決策として、外壁の材料にコンクリートではなく、石材を用いたためではないかと推測しています。

また、石造りはデザイン的にも優れていると考えられたのでしょう。

「旧宮塚町住宅」へのアクセス

芦屋市宮塚町12-24

* JR芦屋駅から、徒歩約8分

* 阪神芦屋駅から徒歩約10分



旧宮塚町住宅のショップ・アトリエ

紅茶専門店 Tea Saloon MUSICA
レザーグッズ Ameeriega toribitatta
ハンドメイドの革靴 ツムジ靴店
ガラス工房 火の果ぐらす

オーダースーツ galanterie club
家具製作・修理 grow-grow
手作りのうつわ yoshida pottery